

法人（事業所）理念		えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよこび」		営業時間	平日：9時から18時 土日祝・休日：9時から18時	
支援方針		・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多域にわたります。） ・他者のかかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情操を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様寄りな支援を行います。		送迎実施の有無	あり なし	
		ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容		
本人支援	健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康の確保 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食や食む力の育成に努めるとともに、歯の手入れができるよう、口腔機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持、自衛具等に関する支援を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食器、衣類の洗濯、排泄等の生活に必要な基本的な技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	例 ・身体測定調査を行い、健康状態を確認する。始まる会では、健康状態や気持ちの表情を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるように促します。質問に答えられない場合は、気持ちの絵カードや言葉のカードを示し、自分で表現できるように支援します。また、日常生活に必要なスキル（食器、洗濯、着替えなど）の習得を支援し、教室の目標に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（理学療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。） 例 ・靴や、ロッカーの整理整頓をする ・玩具をなくす ・時間内に身支度を終わらせる	例 ・身体測定調査を行い、健康状態を確認する。始まる会では、健康状態や気持ちの表情を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるように促します。質問に答えられない場合は、気持ちの絵カードや言葉のカードを示し、自分で表現できるように支援します。また、日常生活に必要なスキル（食器、洗濯、着替えなど）の習得を支援し、教室の目標に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（理学療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。）	
	運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 姿勢の固定や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、手行器等による移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保有する感覚の活用 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の機能及び代替手段の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくする眼鏡や補助器具等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	例 ・姿勢保持装置を用いて状況を把握しやすくする眼鏡や補助器具等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 例 ・感覚の機能及び代替手段の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくする眼鏡や補助器具等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	例 ・姿勢保持装置を用いて状況を把握しやすくする眼鏡や補助器具等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 例 ・感覚の機能及び代替手段の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくする眼鏡や補助器具等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	
	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数量等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を収集し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色の習得 数量、形の大小で、物の量の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の偏りの特性に配慮する。また、こだわりや固執等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	例 ・話を正確に理解する ・想像する、イメージする力を身に付ける ・複数指示を見えて行動する	例 ・話を正確に理解する ・想像する、イメージする力を身に付ける ・複数指示を見えて行動する	
	言語 コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言語の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声等を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字、絵画等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 相手と応答した場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 数・数量概念の向上のための支援 発達障害のお子さまなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機能の活用 各種の文字、記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が可能になるよう支援する。	例 ・お友達に言葉で伝える ・お友だち「入れて」「抜けるね」を伝える ・おもちゃの貸し借りで適切に断ることができる	例 ・お友達に言葉で伝える ・お友だち「入れて」「抜けるね」を伝える ・おもちゃの貸し借りで適切に断ることができる	
	人間関係 社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の感情と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人との関係を築き、身近な人と密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 積極的行動の支援 遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や人間関係の形成を支援する。 (c) 感覚運動遊びから数感遊びへの支援 感覚運動を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから仲間遊びへの支援 仲間と遊ぶことで仲間とある人遊びの状態から遊びを行ない、大人が入り込んで行う連発的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の感情と仲間・ロールのための支援 大人を介して自分の得意なこと、得意なことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや行動の調整ができるよう支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。	例 ・自分の感情と向き合う ・気持ちの切り替えが出来るようになる ・適切な声の大きさに自分で気付いて調節することができる	例 ・自分の感情と向き合う ・気持ちの切り替えが出来るようになる ・適切な声の大きさに自分で気付いて調節することができる	
	家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有いたします。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。	移行支援	・必要に応じて園に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談先に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・保育園・幼稚園への送迎時、先生と園での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。		
地域支援・地域連携	・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連絡会議を定期的に開催し、情報共有・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとに関するの提案やポイントを共有します。 ・セルフパランの基には利用計画のコーディネーターの中核を担う事業所の開催する会議に参加し、情報共有を行います。	職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体的発達強化研修 ・感染症対策研修 その他 児童習マージングにて他教室との情報・意見交換実施			
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動					